

我等はまた日本の都市に於ける今日の労働者の住宅は、全く人間の住むに適せざることを聲明し、その住宅の改良を世界に訴へんとす。我等はまた労働者自身の向上のために補習教育、徒弟教育、また労働者の社会教育を普及せん爲に、政府當局が適當なる設置をせられんことを希望し、將來は労働者の子弟と雖も、資本家の子弟の如く経済的束縛なくして自由に大學に入学し得る設備の與へられんことを要求す。

斯の如き要求は、生産者が爲すべき正當の權利であつて、我等が一個の人格であり自主である以上、決して市場に於ける一商品で無いと、世界に向つて告ぐるに必要なる條件である。

我等は決して成功を急ぐものでない。我等は凡ての革命と暴動と、煽動過激主義思想を否定す。我等はたゞ自己の生産的能力を理性に信頼して、確乎たる建設と創造の道を進まんとするものである。時代は變るであらう。流行を追ふことの好きな日本人は、昨日は帝國主義を送り、今日はデモクラシーを迎へ、明日はまた人種的偏見に煩はされて、我等労働者の自覺に一顧だも與へないであらう。然し我等は既に一步を踏み出した。此道は決して變るものではない。我等は生産者の外に、文明を教へ得るもの、ないことを知つて居るから、消費階級の遊戯的文明と、それによる此度の破産を咄ひ、凡ての迷妄と、破壊に反対し、戦後に於ける世界の改造と、建設は、たゞ我等生産者のみに依て爲し得べきこと、かくして靉智の太陽を仰ぐ日の近きことを世界に宣言するものである。

大正八年四月二十日

友愛會關西労働同盟會

斯くして賀川豊彦氏が、其組織と理論と運動と指導的中樞たりしは何人も疑はざるところなるが、氏が如何なる理想の下に之を指導したるかに就て「賀川氏はギルドマンなり」と云ふに止まらず、氏が組合の機關紙「労働者新聞」に發表したる二論文「工場の人間化」「組合主義の確立」を引きて指導者としての賀川氏を考察せん。

工場の人間化

工場を物品の製作所だと考へるのが間違ひです。工場は人間の働く處です。經濟と云へば金儲けだと思ふ事が、大體間違つて居るのです。人間が愉快に送るのが經濟です。其の證據に活動寫眞と芝居には切符を買つて行くじやありませんか。そしてアメリカでは一年に數億弗のフィルムを製造するではありませんか。それで人間が働くこと云ふ事は本能ですから、今日の様にいや／＼働く工場では無く愉快に働ける工場にしてさへくれ、ば、少々給金が安くても構はないのです。愉快に働けると云ふ第一は自分と家内とが食へる丈の生活費と、子供と自分が多少教育と享樂を受け得る保證です。

第二は工場のデモクラシーです。工場主が儲けさせて貰つて居て威張る事と、組長伍長に愛がない事と、下に立つ者が組織の必要上、上に立つ者に思ひやりがなくデモクラシーを放逸と解して云ふ事を聞かない様な事が互に相愛することです。愛はデモクラシーの源です。

第三は工場の立憲化です。凡ての平職工に發言權を與へるのみならず、金儲けがあれば労働者にウツト分けてくれる事です。寢て居て株券を握つて居るものが、一年に幾十萬圓をたゞで儲けられるのに、工場で負傷して死んだ職工がタツタ百七十日分の日給で追拂はれて居る今日です。工場立憲も何も有つたものじやありません。

第四は工場の組合管理です。資本の方は資本家のおやりになるのは、當分の中は差支へは無いとして工場の經營丈はせめて職工の自治體である組合で管理したいものです。そうすれば不平は職工から出る筈がありません。ストライキも稀出しもありません。工場は天下泰平です。そして之を全國的に連絡を取りますと、生産者の議會が出来ます。そして之に對立して、今日の資本家は消費者組合をこしらへて、消費者議會を設け、生産者の横暴に具へれば善いのです。

かうして労働者が自分の好きな職業を撰ぶ様になれば、工場に働いても、エサソンが七日七晩寝ることを忘れて發明に熱した様に、労働時間のこと何も忘れて、悦んで労働が出来るのです。それが、今日では多く労働しても少しも労働者の懐には這入らず資本家はそれだけ自分か儲けるものですから、労働しても何の興味もないのです。人間が働きたいと云ふのは、その本能から起つた深い要求です。それを労働者が全く嫌ふ様になつたのは、労働者が悪いではありません。金儲けの道具にしてしまつた資本家が悪いのです。で、今日の資本家が悔改めない以上は、労働者も奴隷じやあるまいし、今日の制度の下に甘んじて働く事がいやに